

令和7年度 第2回学校運営協議会 (中央特別支援学校・静岡北特別支援学校 合同学校運営協議会)

記録 静岡北特支 教頭

1 日 時 令和7年11月7日(木) 9:30~11:30

2 会 場 静岡県立中央特別支援学校 会議室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

① 中央特別支援学校

静岡市あさはた緑地 管理事務所長

静岡県立こども病院 副看護部長兼教育看護師長兼認定看護管理者

静岡てんかん・神経医療センター 療育指導室長(欠席)

麻機学区自治会連合会長

静岡大学教育学部 准教授

中央特別支援学校 P T A会長

② 静岡北特別支援学校

常葉大学教育学部 初等教育課程 講師

協同組合 静岡流通センター 専務理事

弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士

麻機学区自治会連合会 防災委員長

静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター 事務局長

静岡北特別支援学校 P T A会長

(2) 職員

① 中央特別支援学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、
病弱学級・訪問教育主任

② 静岡北特別支援学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部副主事、高等部主事

4 会議次第

(1)開会

(2)学校運営の取組状況について(報告)

① 中央特別支援学校

② 静岡北特別支援学校

(3)意見交換

(4)閉会



5 会議内容

(1)開会

① 校長挨拶(静北特支校長)

- ・両校共通して、県内の県立養護学校として、障害のある子どもたちを対象にした初めての学校になる。熱い思いや願い、多くの方々に支えられている。
- ・同じ漆山にある学校で、管理職同士が連絡を取り合うことも多い。台風や大雨などの緊急事態の時も連絡・相談して、助け合える間柄である。児童が施設を使わせてもらったり、生徒が関わって学習する場を設定したりしている。
- ・今回の協議会では、学校経営について、お互いの気付きを学校経営に反映したいと思っている。ざっくばらんにワイワイガヤガヤと盛んな意見交換ができるとよい。

② 学校運営協議会委員紹介

(2) 学校運営の取組状況について（報告）

① 中央特別支援学校

【グランドデザインについて】（校長）

- ・グランドデザインの1番上段に「将来の豊かな生活に向けて」という言葉がある。本校には、入退院を繰り返している児童生徒もいる中で、一人一人の将来をしっかりとと考え、将来に向けて日々指導している。
- ・児童生徒を真ん中に置いて、保護者、教職員、関係機関、地域がつながって、子どもたちをしっかりと支えている。
- ・学校では、「安全・安心」「連携」「指導」の三つの柱で学校経営を進めている。「安全・安心」では人権、命を大切にしている。「指導」では、個別最適な学びと協働的な学びの一体化と専門性の向上を目指している。「連携」では、交流及び共同学習と、保護者関係機関との連携を重点としている。
- ・「キラリ＆ホット」という言葉を大事にしている。みんなの良いところを見つけていこうという視点をもって、みんなでつながり、子どもたちを支えていきたい。

【安全部】（安全部長）

- ・「キラリ＆ホット」の視点での取組を言語化、文字化して情報発信をしたことにより、人権意識が高まった。「キラリ＆ホット」の視点での取組は今後も継続していく。
- ・災害を想定して実践的な訓練を重ねたことで、安全への意識が高まった。今後、実際の緊急時の初動対応、特に迅速な役割分担や情報伝達の強化が求められる。
- ・ヒヤリハットを未然に防ぐための情報を共有できる機会を増やしていく。「こんなことがあってドキッとしたけれども、～したら大丈夫だった」等と、ヒヤリハットを良い気付きに変え、それを良い雰囲気の中で気軽に伝え合える、そんな関係性を築いていきたい。

【指導部】（指導部長）

- ・計画的な校内研修の実施や専門家を活用した実践的な研修の設定によって、必要な知識を得ることができた。
- ・研修を通して知識を得る機会は今度も継続的に確保していく必要がある。知識を得るだけでなく、授業や指導支援と結び付けて実践することが必要。
- ・ICTの活用法を学び授業に取り入れることで、児童生徒の学習効果につなげることができた。
- ・後期にかけて、知識等の学びと実践をつなげながら、子どもたちにとってより良い教育活動を展開していきたい。

【連携部】（連携部長）

- ・今年度、連携部に教務課と進路指導課が加わったことで、個別の教育支援計画を中心とした連携をイメージすることができるようになったことが大きなポイントである。

- ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成や見直しの時間を確保したことで、児童生徒の目標に沿った学習活動の取組ができた。
- ・外部機関からの情報や各研修の報告を共有することで、情報の面からも連携を感じることができた。
- ・これから予定されている作品展なども含め外部機関と連携して実施した活動の成果や評価を丁寧にフィードバックし、児童生徒の学びや指導支援の質の向上、特別支援学校の魅力を発信する方法の向上につなげていきたい。

② 静岡北特別支援学校

【グランドデザインについて】（校長）

- ・デザインは麻機地区のシンボルでもある蓮の花をモチーフにしている。
- ・小学部児童、中学部生徒、高等部生徒、地域、職員、保護者が仲良く手をつないでいる様子を表現している。これが校章のデザインにもなっている。
- ・本校は小学部、中学部、高等部の12年間のつながりが分かるように、各学部の目標の上に学校教育目標がある構図になっている。つなげて育していくことを大事にしている。
- ・昨年度までは「専門性」「連携」「安全・安心」を横並びにしていたが、今年度は「安全・安心」がベースとなるようにした。
- ・本校の自慢も掲載している。教職員にアンケートをとり、「明るいあいさつ」「麻活プロジェクト」の二つとなった。挨拶運動をしたり、各学部・学年で取り組んでいる麻活の紹介をしたりしている。学校の自慢をさらに魅力的なものにしていきたい。

【小学部】（小学部主事）

- ・自立活動の区分に沿って子供の課題を整理する「子ども理解の表」を活用して目標や手立てを作成することで、児童に合った課題設定ができ、指導や支援につながっている。
- ・学年・学級で起きたヒヤリハットを翌日には学部全体に共有して、ほかの学年も同様の状況を起こさないよう、事前の対策を行うように努めた。
- ・地域との連携としては、公園やコンビニなど、地域に出かけた学習を行った。特に今年はベーテル麻機さんの御協力をいただいて、ジャガイモやサツマイモ堀り、稲刈りなどの貴重な体験ができた。
- ・保護者との連携としては「頑張りカード」を活用して、子どもの成長に向けて、保護者と一緒に取り組んでいる。

【中学部】（中学部副主事）

- ・継続すること（同じ活動を毎年行う）を大切にすることで、成長を実感することができた。また、同じ活動の中でも課題を見つけ、指導・支援の質を向上させている。
- ・中学部の強みである「雰囲気の良さ」は継続していく。毎日の朝の打ち合わせで、先生達に順番に仕事以外の話をしてことで、人柄や趣味などを知れて、よい雰囲気につながっている。
- ・学部会の中でミニ学習会の時間を設けている。応用行動分析についてや個別の指導計画の書き方など専門性を高める取組をしている。
- ・「自ら考える」という中学部の目標に向けて、「生徒の思考を想定した授業づくり」を頑張っている。生徒発信の活動が非常に増えてきた。

【高等部】（高等部主事）

- ・働くことを目指しているのではなく、学校生活を通して総合的に人間力を高めていくことを大事にしたい想いから、今年度、高等部の目標を「自ら挑戦し、可能性を広げ、仲間と共に地域で活躍する生徒」に変えた。

- ・授業づくりでは、子どもたちの学びを想定しながら、どんな力を身につけて欲しいかを学部教員で検討できるようになってきている。
- ・「麻活」をはじめ、地域での作業製品販売会や今年度始まったバナナ農園さんなど、地域とは多くのつながりを持たせていたい。今後も大事にしていきたい。
- ・学校業務のペーパーレスは、だいぶ進んできている。ICT機器の活用とBYODを進める中で、情報機器についての専門性と質を高めていけると良い。

(3) グループでの意見交換（4～5人でのグループにて）

【各グループ内で出された意見の整理（全体で共有）】

学校からの発信	災害への備え
<p>「知ってもらうきっかけづくり」 「より知ってもらうために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS、インスタグラム、ホームページ、作品展示、作業製品販売会等の活用 ・地域の方と子供について話をする機会の設定 	<p>「地域とのつながり」 「災害時を想定して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設（流通センター、病院等）の利用 ・避難場所の整備（体育館の冷暖房） ・備蓄品の確認（非常食体験を保護者も一緒に） ・災害時の周辺道路の状況への対応（児童生徒引き渡し時等）

共生	人権を大切にする学校
<p>「地域の中で一緒に」 「地域に活かされている学校」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校と一緒に地域施設を使っての活動 ・地域の祭りへの参加 ・中央特支の「キラリ＆ホット」 ・静北特支の「麻活」 	<p>「子どもの気持ち、子どもの視点を大切に」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは無理やりやらされていないか、分かってできているのか、達成感はあるのかを考えながらの指導・支援 ・子ども同士でお互いのいい所を認め合える学校づくり

学校業務の多忙化改善
<p>「質の高い時間の使い方」 「ICTの活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面の良さを生かした会議運営 ・情報の重要度を示し、整理した会議運営 ・PC掲示板を活用した情報共有 ・チャットGPTの活用 ・雑談する時間も大切に



【まとめ】

- ・いろいろな視点からたくさんの意見やアイディアをいただけて感謝している。
- ・すぐに取り組めるものについては取り入れたり、来年度以降の学校運営のヒントとさせていただいたりする。

(4) 閉会

校長挨拶(中央特別支援学校長)

- ・たくさんの御意見をいただけて、嬉しく思う。今後、いただいた御意見をどう生かしていくのか考えていきたい。
- ・お互いの学校の経営方針や経営計画、前期の反省など、他の学校の学校運営について聞くことができたのは貴重な機会になった。次に向けてのヒントを得ることができた。
- ・麻機地区での学校の在り方について、どうあればよいか意見をいただく側であったが、両校とも、50年以上ある学校になるので、どうあるべきかという視点をもって進んでいくことが必要。
- ・学校にいる素敵な子どもたちが、社会に出て豊かに充実した人生を送れるように、今何をすべきかをもう1回考える機会としたい。
- ・本日は、多くの方に来ていただき、たくさんの御意見をいただくことができた充実した時間であった。本当に多くのヒントをいただけた今日は、とてもありがたい日になった。ありがとうございました。

